

人口動態統計からみた 阪神・淡路大震災による死亡の状況

目 次

	頁
1 性・年齢階級別にみた死亡数	1
2 傷害発生場所（市区町村）別にみた死亡数	3
3 死因別にみた死亡数	4
(1) 年齢階級別	4
(2) 死亡日時別	5
(3) 死亡場所（病院、自宅等）別	6
(4) 傷害発生場所（市区町村）別	7
4 傷害発生場所（市区町村）及び死亡場所（市区町村） 別にみた死亡数	8
5 国籍及び性別にみた死亡数	10
参考1 戦後の主な地震・津波による死亡数	11
参考2 現地調査による震度7の分布	12
参考3 兵庫県の人口	13
参考4 死因の説明	14

今回とりまとめたものは、平成7年1月から6月までの間に市区町村に届け出られた死亡届及び死亡診断書を基に作成された人口動態調査死亡票に、「震災による死亡」と記載されたもの（外国人を含む）について集計したものである。

厚生省大臣官房統計情報部

担当係：人口動態統計課 死亡統計企画第1係

TEL (03) 3260-3187 内線338

1 性・年齢階級別にみた死亡数

平成7年1月17日（午前5時46分頃）に発生した阪神・淡路大震災は、戦後のわが国における地震災害の中で最大の被害をもたらした（参考1）。

人口動態調査によるこの災害の死亡者は5,488人で、男性2,211人（40.3%）、女性3,277人（59.7%）であり、女性の死亡者が男性の約1.5倍となっている。特に65歳以上では女性の占める割合は男性の約2倍である（図1、表1）。

図1 年齢階級（3区分）・性別死亡数構成割合

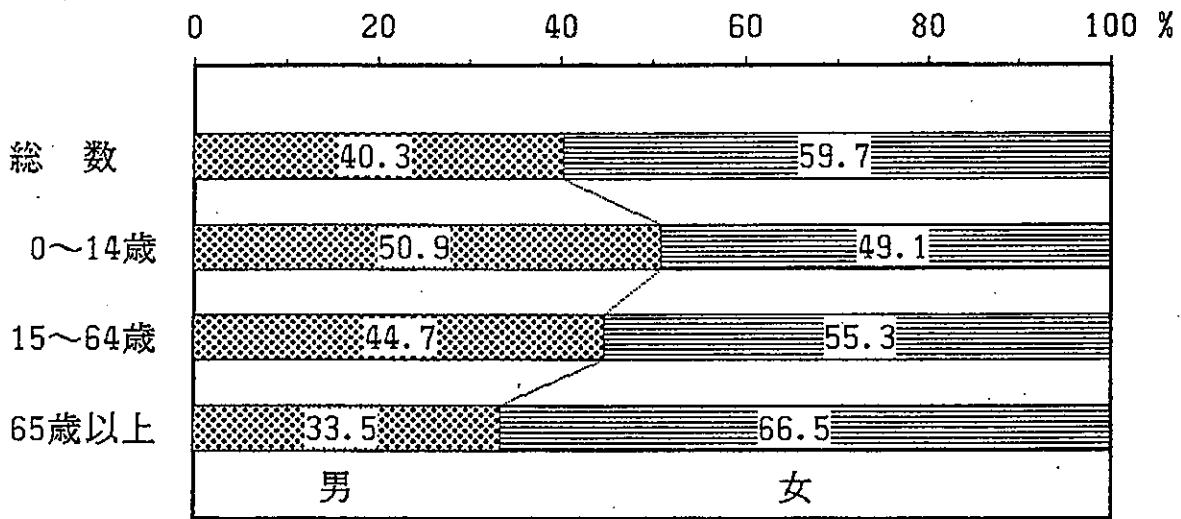
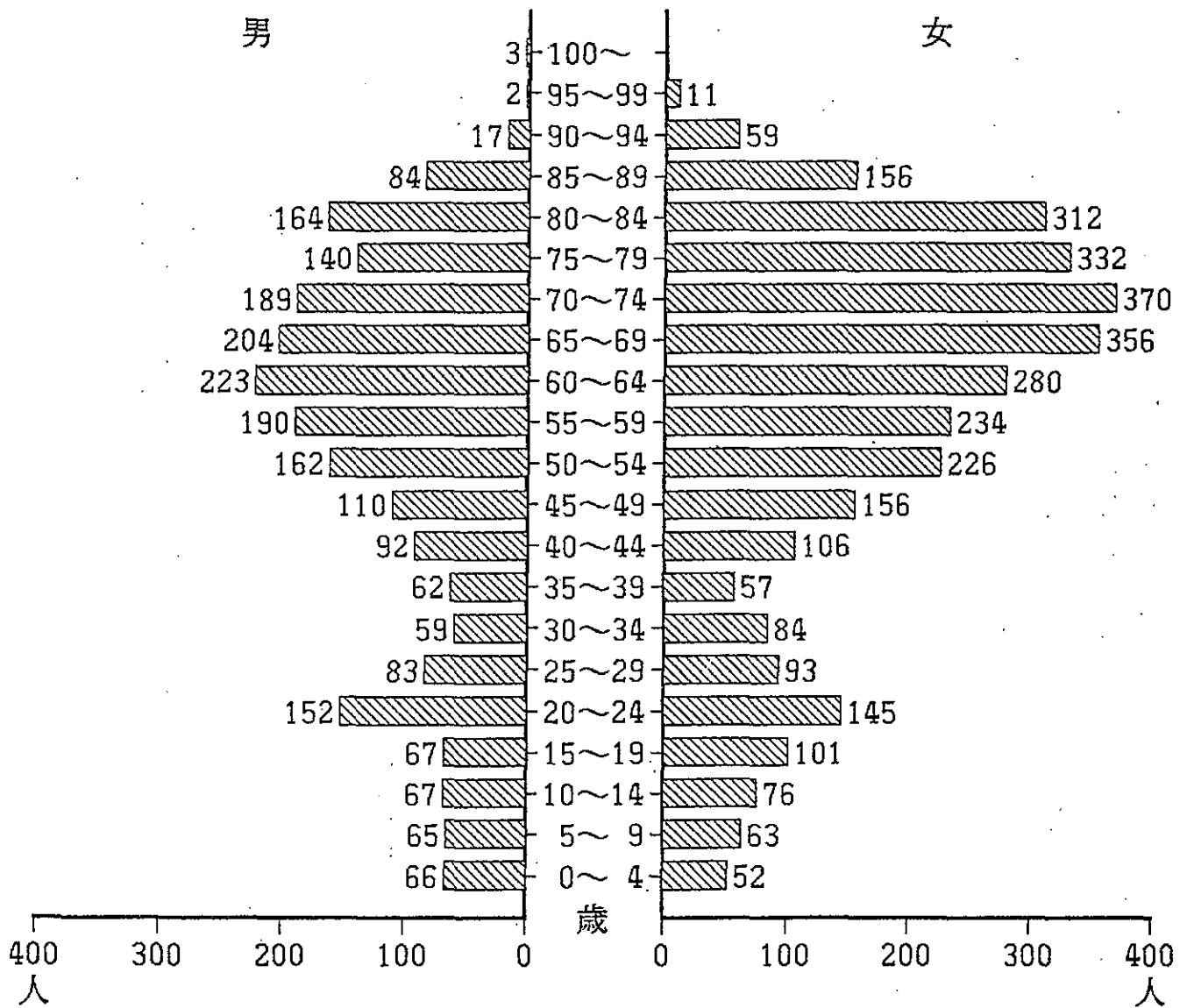


表1 性・年齢階級（3区分）別死亡数及び構成割合

	死 亡 数			構 成 割 合 (%)		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	5 488	2 211	3 277	100.0	100.0	100.0
0～14歳	389	198	191	7.1	9.0	5.8
15～64歳	2 682	1 200	1 482	48.9	54.3	45.2
65歳以上	2 399	803	1 596	43.7	36.3	48.7
不 詳	18	10	8	0.3	0.5	0.2

年齢（5歳階級）別にみると、男性では60～64歳、女性では70～74歳がそれぞれ最も多く、また、一部の年齢階級を除き女性の死亡者が多い（図2）。

図2 性・年齢（5歳階級）別死亡数



2 傷害発生場所（市区町村）別にみた死亡数

死亡者を傷害発生場所（市区町村）別にみると、神戸市が 3,859人で総数の70%を占め、次いで西宮市が 985人（17.9%）、芦屋市が 399人（7.3%）となっている。

さらに神戸市を区別にみると、東灘区 1,292人（23.5%）、灘区 851人（15.5%）、長田区 744人（13.6%）となっている。（表2）

表2 性・傷害発生場所（市区町村）別死亡数及び構成割合

	死 亡 数			構 成 割 合（％）		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	5 488	2 211	3 277	100.0	100.0	100.0
兵 庫 県	5 447	2 191	3 256	99.3	99.1	99.4
神 戸 市	3 859	1 558	2 301	70.3	70.5	70.2
東 灘 区	1 292	527	765	23.5	23.8	23.3
灘 区	851	355	496	15.5	16.1	15.1
兵 庫 区	430	178	252	7.8	8.1	7.7
長 田 区	744	270	474	13.6	12.2	14.5
須 磨 区	321	121	200	5.8	5.5	6.1
垂 水 区	3	1	2	0.1	0.0	0.1
北 区	5	2	3	0.1	0.1	0.1
中 央 区	191	95	96	3.5	4.3	2.9
西 区	6	3	3	0.1	0.1	0.1
不 詳	16	6	10	0.3	0.3	0.3
尼 崎 市	31	18	13	0.6	0.8	0.4
明 石 市	5	1	4	0.1	0.0	0.1
西 宮 市	985	393	592	17.9	17.8	18.1
洲 本 市	4	1	3	0.1	0.0	0.1
芦 屋 市	399	154	245	7.3	7.0	7.5
伊 丹 市	11	7	4	0.2	0.3	0.1
加 古 川 市	2	2	-	0.0	0.1	-
宝 塚 市	81	26	55	1.5	1.2	1.7
川 西 市	1	-	1	0.0	-	0.0
多紀郡丹南町	1	-	1	0.0	-	0.0
津名郡津名町	5	4	1	0.1	0.2	0.0
北淡町	38	17	21	0.7	0.8	0.6
一宮町	10	3	7	0.2	0.1	0.2
不 詳	15	7	8	0.3	0.3	0.2
京 都 府	1	1	-	0.0	0.0	-
大 阪 府	11	5	6	0.2	0.2	0.2
不 詳	29	14	15	0.5	0.6	0.5

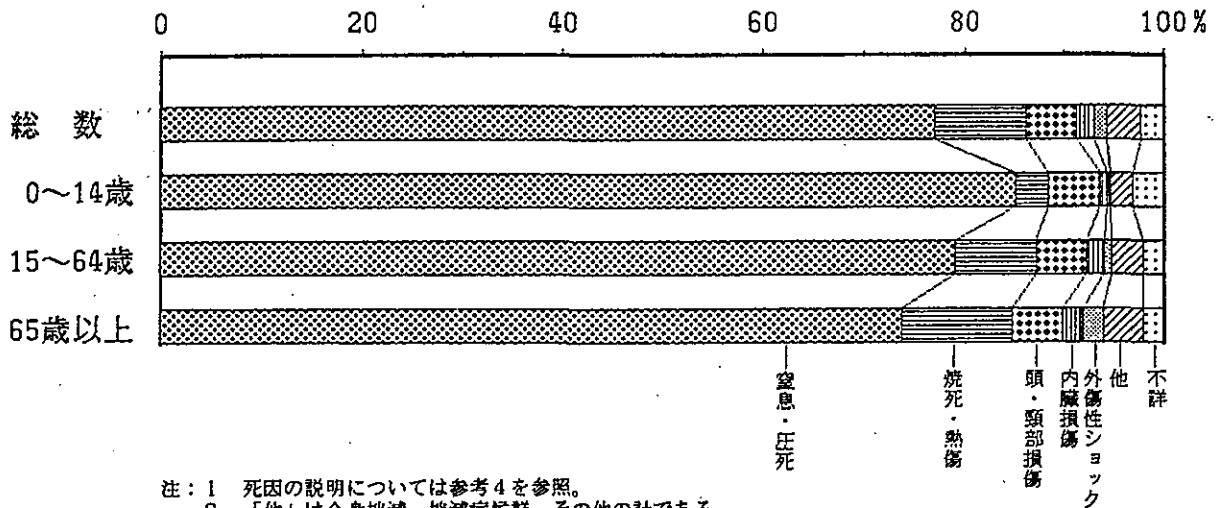
3 死因別にみた死亡数

(1) 年齢階級別

死亡者を死因別にみると、総数では窒息・圧死が 4,224人 (77.0%) で最も多く、次いで焼死・熱傷 504人 (9.2%) となっている。

65歳以上の死亡者についてみると、焼死・熱傷の割合が、他の年齢階級より多い。(図3、表3)

図3 年齢階級(3区分)・死因別死亡数構成割合



注：1 死因の説明については参考4を参照。
2 「他」は全身挫滅、挫滅症候群、その他の計である。

表3 年齢階級(3区分)・死因別死亡数及び構成割合

	総 数	窒息 ・ 圧 死	焼 死 ・ 熱 傷	頭 ・ 頸 部 損 傷	内 臓 損 傷	外 傷 性 シ ョ ッ ク	全 身 挫 滅	挫 滅 症 候 群	そ の 他	不 詳
総 数	5 488	4 224	504	282	98	68	45	15	128	124
0~14歳	389	331	13	20	3	1	4	1	4	12
15~64歳	2 682	2 118	219	138	48	17	21	8	56	57
65歳以上	2 399	1 769	265	123	47	50	20	6	68	51
不 詳	18	6	7	1	-	-	-	-	-	4
		構 成 割 合 (%)								
総 数	100.0	77.0	9.2	5.1	1.8	1.2	0.8	0.3	2.3	2.3
0~14歳	100.0	85.1	3.3	5.1	0.8	0.3	1.0	0.3	1.0	3.1
15~64歳	100.0	79.0	8.2	5.1	1.8	0.6	0.8	0.3	2.1	2.1
65歳以上	100.0	73.7	11.0	5.1	2.0	2.1	0.8	0.3	2.8	2.1
不 詳	100.0	33.3	38.9	5.6	-	-	-	-	-	22.2

注：死因の説明については参考4を参照。

(2) 死亡日時別

死亡日時をみると、地震の当日である1月17日の死亡者が5,175人で、総数の94.3%と大部分を占めている。17日の死亡は、午前4,461人(81.3%)、午後440人(8.0%)であり、以下、翌日の18日が185人(3.4%)、19日が29人(0.5%)となっている。

死亡日時別に死因をみると、1月17日の死亡者のうちの窒息・圧死が4,059人、焼死・熱傷が488人、頭・頸部損傷が256人である。

挫滅症候群は19日以降に現れている。(表4)

表4 死亡日時・死因別死亡数

	総 数	1 月 17 日			1 月 18 日	1 月 19 日	1 月 20 日 以 降	不 詳	
		午 前	午 後	不 詳					
総 数	5 488 (100.0)	5 175 (94.3)	4 461 (81.3)	440 (8.0)	274 (5.0)	185 (3.4)	29 (0.5)	97 (1.8)	2 (0.0)
窒息・圧死	4 224	4 059	3 626	316	117	124	14	26	1
焼死・熱傷	504	488	307	62	119	15	1	-	-
頭・頸部損傷	282	256	236	7	13	7	1	17	1
内臓損傷	98	81	71	9	1	9	2	6	-
外傷性ショック	68	50	37	12	1	11	2	5	-
全身挫滅	45	39	25	11	3	3	1	3	-
挫滅症候群	15	-	-	-	-	-	3	12	-
その他	128	81	64	13	4	13	5	29	-
不 詳	124	121	95	10	16	3	-	-	-

注：死因の説明については参考4を参照。

(3) 死亡場所（病院、自宅等）別

病院、自宅等の死亡場所をみると、総数では 4,330人（78.9%）が自宅で死亡している。死因別では窒息・圧死での死亡者 4,224人のうち 3,415人（80.8%）、焼死・熱傷での死亡者 504人のうち 460人（91.3%）、頭・頸部損傷での死亡者 282人のうち213人（75.5%）が自宅で死亡しているのに対し、全身挫滅では45人のうち31人が、また、挫滅症候群では15人のうち14人が病院で死亡している（表5、図4）。

また、死亡場所（病院、自宅等）別に死亡日をみると、病院での死亡者は1月17日が396人、翌日以降155人である。一方、自宅での死亡者は当日が4,219人、翌日以降が109人である（表6）。

表5 死亡場所（病院、自宅等）・死因別死亡数及び構成割合

	死 亡 数					構 成 割 合 (%)				
	総 数	病 院	診 療 所	自 宅	そ の 他	総 数	病 院	診 療 所	自 宅	そ の 他
総 数	5 488	551	21	4 330	586	100.0	10.0	0.4	78.9	10.7
窒息・圧死	4 224	329	16	3 415	464	100.0	7.8	0.4	80.8	11.0
焼死・熱傷	504	2	-	460	42	100.0	0.4	-	91.3	8.3
頭・頸部損傷	282	31	1	213	37	100.0	11.0	0.4	75.5	13.1
内臓損傷	98	39	-	51	8	100.0	39.8	-	52.0	8.2
外傷性ショック	68	29	1	33	5	100.0	42.6	1.5	48.5	7.4
全身挫滅	45	31	-	11	3	100.0	68.9	-	24.4	6.7
挫滅症候群	15	14	-	-	1	100.0	93.3	-	-	6.7
その他	128	51	3	61	13	100.0	39.8	2.3	47.7	10.2
不詳	124	25	-	86	13	100.0	20.2	-	69.4	10.5

注：死因の説明については参考4を参照。

図4 死亡場所（病院、自宅等）別死亡数及び構成割合

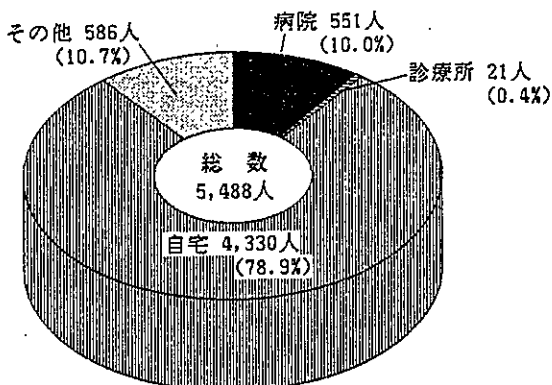


表6 死亡日時・死亡場所（病院、自宅等）別死亡数

	総 数	1 月 17 日			1 月 18 日	1 月 19 日	1 月 20 日以 降	不 詳	
		午 前	午 後	不 詳					
総 数	5 488 (100.0)	5 175 (94.3)	4 461 (81.3)	440 (8.0)	274 (5.0)	185 (3.4)	29 (0.5)	97 (1.8)	2 (0.0)
病 院	551	396	282	104	10	66	17	72	-
診 療 所	21	19	16	3	-	1	-	1	-
自 宅	4 330	4 219	3 864	133	222	86	8	15	2
そ の 他	586	541	299	200	42	32	4	9	-

(4) 傷害発生場所（市区町村）別

傷害発生場所（市区町村）別に死因をみると、震度7の地域を含む市区町村では窒息・圧死が多く、東灘区 1,129人、西宮市 844人、灘区 681人となっている。

死因別に傷害発生場所（市区町村）をみると、焼死・熱傷 504人のうち、長田区が245人で約半数を占めている。（表7、参考2）

表7 死因・傷害発生場所（市区町村）別死亡数

	総 数	窒息・ 圧死	焼死・ 熱傷	頭・ 頸部 損傷	内 臓 損 傷	外 傷 性 シ ョ ッ ク	全 身 挫 滅	挫 滅 症 候 群	そ の 他	不 詳
総数	5 488	4 224	504	282	98	68	45	15	128	124
兵庫県	5 447	4 202	501	275	98	67	45	15	125	119
神戸市	3 859	2 878	463	197	76	57	6	7	83	92
東灘区	1 292	1 129	26	39	35	11	3	-	20	29
灘区	851	681	74	37	14	18	-	1	24	2
兵庫区	430	247	88	48	11	3	-	-	11	22
長田区	744	423	245	33	6	11	2	4	8	12
須磨区	321	274	12	6	3	4	-	1	2	19
垂水区	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-
北区	5	1	-	2	-	1	-	-	1	-
中央区	191	112	17	29	6	4	1	1	14	7
西区	6	3	-	1	-	1	-	-	-	1
不詳	16	6	-	2	1	4	-	-	3	-
尼崎市	31	14	11	3	-	2	-	-	1	-
明石市	5	-	-	4	-	-	-	-	1	-
西宮市	985	844	17	36	14	6	37	4	26	1
洲本市	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-
芦屋市	399	349	6	11	-	1	2	3	3	24
伊丹市	11	6	-	5	-	-	-	-	-	-
加古川市	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
宝塚市	81	66	-	6	6	-	-	1	2	-
川西市	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
多紀郡丹南町	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
津名郡津名町	5	4	-	-	1	-	-	-	-	-
北淡町	38	27	1	7	-	-	-	-	3	-
一宮町	10	5	-	4	-	-	-	-	1	-
不詳	15	6	3	2	-	1	-	-	1	2
京都府	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大阪府	11	5	-	4	-	1	-	-	1	-
不詳	29	17	3	2	-	-	-	-	2	5

注：死因の説明については参考4を参照。

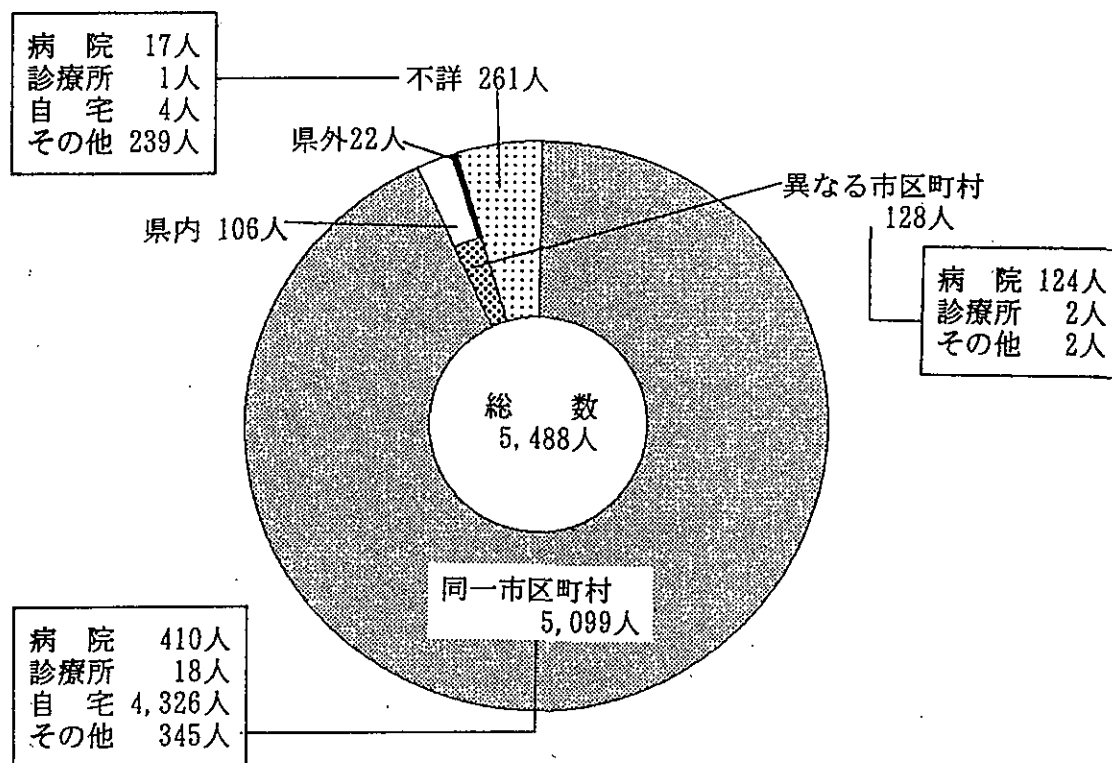
4 傷害発生場所（市区町村）及び死亡場所（市区町村）別にみた死亡数

傷害発生場所（市区町村）と死亡場所（市区町村）の関係をみると、傷害発生場所と死亡場所が同じ市区町村の死亡者は 5,488人のうち 5,099人を占めている。

また、傷害発生場所と死亡場所が異なる死亡者についてみると、128人のうち県内 106人、県外22人となっている。

次に病院での死亡者についてみると、410人が同一市区町村の病院で 124人が異なる市区町村の病院で死亡している（図5）。

図5 傷害発生場所（市区町村）と死亡場所（市区町村）の関係



- 注：1 「同一市区町村」、「異なる市区町村」は傷害発生場所（市区町村）と死亡場所（市区町村）の異同により区分した。
2 不詳は傷害発生場所（市区町村）、死亡場所（市区町村）のうち両方、または片方が不詳のものをさす。

病院での死亡者 551人について移動状況を見ると、傷害発生場所と異なる市区町村へ移動した者は、長田区の25人をはじめとして、灘区、東灘区、兵庫区、西宮市に多くみられ、異なる市区町村からの移動は中央区に集中している（表8）。

表8 傷害発生場所（市区町村）と死亡場所（市区町村）別にみた病院での死亡数

	同一市区町村	異なる市区町村	異なる市区町村	傷害発生場所	傷害発生場所（移動元）の内訳
総数	410	124	124	17	
兵庫県	409	123	103	15	
神戸市	175	88	72	10	
東灘区	39	18	1	-	灘1
灘区	24	24	2	-	東灘2
兵庫区	29	12	5	1	長田5
長田区	36	25	9	4	兵庫5, 須磨3, 中央1
須磨区	25	5	2	1	灘1, 長田1
北区	2	1	9	-	東灘1, 灘3, 兵庫2, 長田2, 中央1
中央区	19	3	38	4	東灘9, 灘11, 兵庫3, 長田11, 須磨2, 北1, 西宮市1
西区	1	-	6	-	灘2, 兵庫1, 長田3
尼崎市	9	2	2	-	西宮市2
明石市	3	-	2	-	東灘1, 灘1
西宮市	165	12	8	2	尼崎市1, 芦屋市5, 宝塚市2
洲本市	1	-	1	-	北淡町1
芦屋市	10	9	-	2	
伊丹市	4	-	1	-	尼崎市1
加古川市	-	-	3	1	東灘1, 灘2
宝塚市	42	7	6	-	長田1, 西宮市5
三木市	-	-	1	-	兵庫1
川西市	-	-	1	-	宝塚市1
三田市	-	-	2	-	灘1, 中央1
津名郡淡路町	-	-	4	-	北淡町4
北淡町	-	5	-	-	
京都府	-	1	2	-	西宮市1, 京都府内1
大阪府	1	-	16	1	東灘4, 灘2, 長田1, 西宮市2, 芦屋市3, 宝塚市4
その他の県	-	-	3	1	長田1, 西宮市1, 芦屋市1

注：「同一市区町村」、「異なる市区町村」は傷害発生場所（市区町村）と死亡場所（市区町村）の異同により区分した。

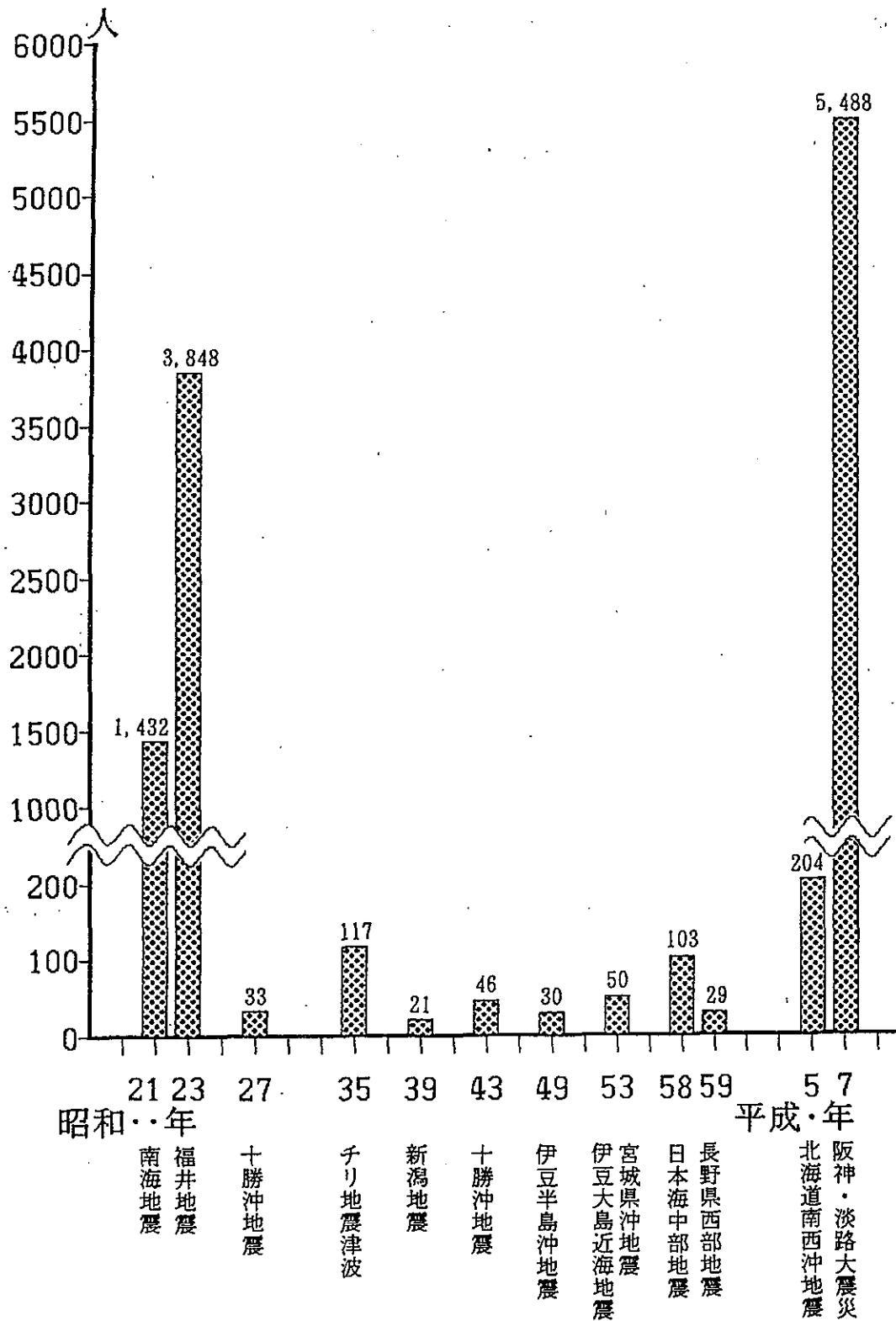
5 国籍及び性別にみた死亡数

死亡者の国籍をみると、日本が 5,322人 (97.0%)、外国籍は166人 (3.0%) で、そのうち韓国・朝鮮が 108人 (2.0%)、中国が41人 (0.7%) となっている。(表9)

表9 性・国籍別死亡数及び構成割合

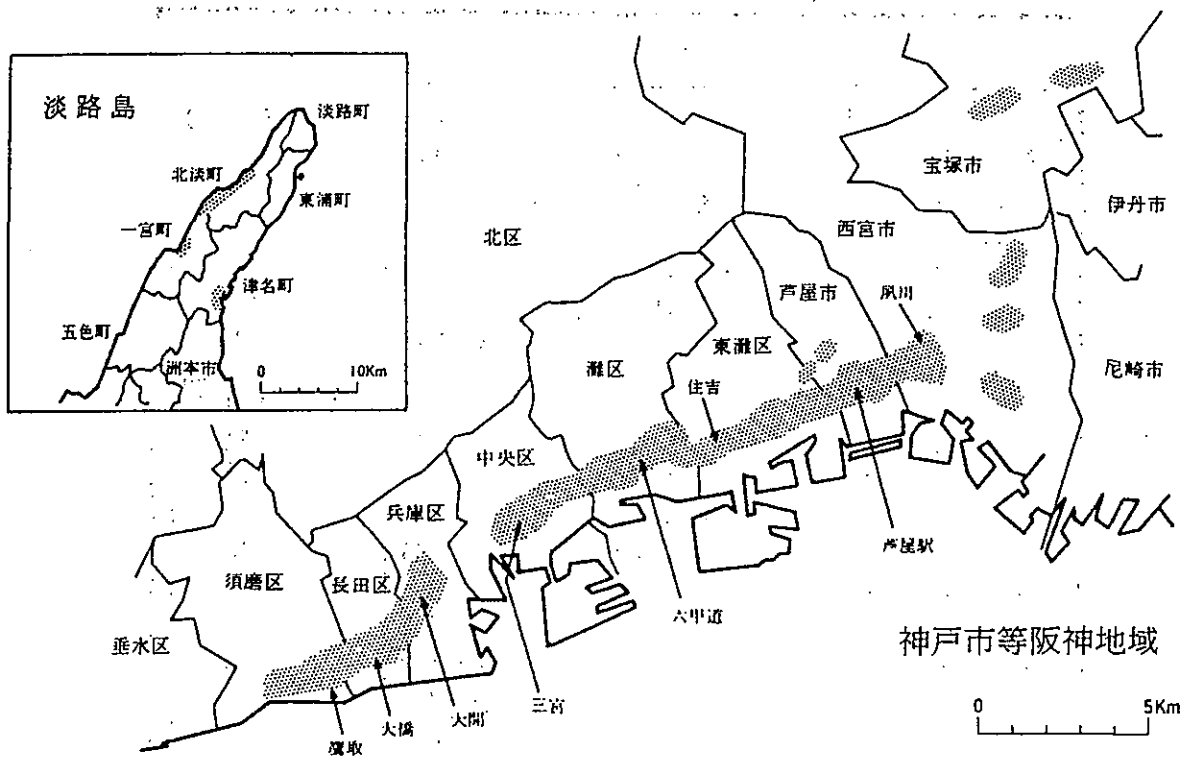
	死 亡 数			構 成 割 合 (%)		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	5 488	2 211	3 277	100.0 (100.0)	40.3	59.7
日 本	5 322	2 144	3 178	100.0 (97.0)	40.3	59.7
外 国	166	67	99	100.0 (3.0)	40.4	59.6
韓国・朝鮮	108	44	64	100.0 (2.0)	40.7	59.3
中 国	41	16	25	100.0 (0.7)	39.0	61.0
フィリピン	2	-	2	100.0 (0.0)	-	100.0
アメリカ 合 衆 国	2	1	1	100.0 (0.0)	50.0	50.0
ブラジル	8	3	5	100.0 (0.1)	37.5	62.5
そ の 他	5	3	2	100.0 (0.1)	60.0	40.0

参考1 戦後の主な地震・津波による死亡数



注：昭和35年～平成5年は、日本人のみの死亡数である。
 資料：昭和20年～27年 消防庁「消防白書」
 昭和35年以降 厚生省「人口動態統計」

参考2 現地調査による震度7の分布



気象庁資料

参考3 兵庫県の人口

(1) 性・市区町村別人口

	総数	男	女
兵庫県	5 457 617	2 654 614	2 803 003
神戸市	1 479 233	714 648	764 585
東灘区	186 814	90 523	96 291
灘区	121 126	57 588	63 538
兵庫区	117 839	56 976	60 863
長田区	124 799	59 750	65 049
須磨区	184 977	88 714	96 263
垂水区	236 175	114 960	121 215
北区	212 209	102 520	109 689
中央区	102 920	48 353	54 567
西区	192 374	95 264	97 110
尼崎市	486 938	242 434	244 504
明石市	280 938	138 039	142 899
西宮市	411 882	199 449	212 433
洲本市	43 552	20 740	22 812
芦屋市	85 196	39 879	45 317
伊丹市	185 706	93 263	92 443
加古川市	250 445	123 530	126 915
宝塚市	203 940	97 756	106 184
川西市	143 604	69 578	74 026
多紀郡丹南町	14 244	6 857	7 387
津名郡津名町	17 632	8 475	9 157
北淡町	11 505	5 505	6 000
一宮町	10 205	4 868	5 337

資料：自治省「住民基本台帳（平成6年3月31日現在）」

(2) 性・年齢階級（3区分）別人口

（単位：千人）

	総数	男	女
総数	5 514	2 669	2 845
0～14歳	910	465	445
15～64歳	3 846	1 895	1 952
65歳以上	757	309	448

資料：総務庁「平成6年10月1日現在推計人口」

注：外国人を含む。

参考4 死因の説明

○「窒息・圧死」

注：「窒息・圧死」には全身打撲を含めた。

- ・ 窒息……………呼吸が妨げられて起こる状態。
- ・ 圧死……………土砂中埋没、重量物落下、構造物間挟圧などの災害によって胸腹部が圧迫されることにより、呼吸運動が障害されて窒息死すること。
- ・ 全身打撲
……………大きな力または物体によって体に衝撃が加わることにより生じる損傷が体の多部位に見られる状態。

○「外傷性ショック」

……………重篤な外傷が原因でおこる全身の血液循環が急に著しく障害された結果多臓器の機能不全を起こす病態。

○「全身挫滅」

注：「全身挫滅」には体幹の挫滅を含めた。

- ・ 全身挫滅
……………物体が当たったり、大きな力が作用して体の多部位が押しつぶされた状態。
- ・ 体幹の挫滅
……………体幹（胴体）が同様に押しつぶされた状態。

○「挫滅症候群」

……………筋肉組織の挫滅があり、短時日（多くは2週間以内）に大部分が急性腎不全を発症する病態。圧挫症候群、クラッシュ・シンドロームとも言う。